

変化のステージモデルの口腔保健分野応用の可能性—第2報— ステージ別不安の質の変化—

○田村達二郎^{1,2)}, 福原 稔²⁾, 福原早紀²⁾, 吉田弥代^{1,2)}, 松田人恵^{1,2)}, 津田 真²⁾, 小石 剛²⁾,
大橋正和²⁾, 赤井綾美²⁾, 文元基宝^{1,2)}

¹⁾文元歯科医院, ²⁾関西ウェルビーイングクラブ

(索引用語: 変化のステージモデル, 感情 (不安), 半構造化)

口腔衛生会誌 56 (4), 2006

目的:

第1報で感情の表出を分析したところ, どのステージにおいても不安が多く表出された事がわかった. 不安の中でも特に維持期が高いことがわかった. そこで, 不安の質についてステージ別に調査を行った.

方法:

第1報と同じであるが, 感情が聞けなかった24名は除外した. 感情は感情ガイドライン表にて基本感情「喜び」「悲しさ」「不安」「怒り」に分け, 派生感情は基本感情の不安に注目をし, それぞれ強度 (恐れ, 怖さ, パニック) 中度 (心配, 混乱を伴う焦り) 弱度 (気がかり, ちょっとした焦り) に分類し集計を行った. 予防への関心度は初診時の問診表にて調査を行った. 関心度は Prochaska JO の汎理論的モデル (The transtheoretical model) の基盤となるステージ理論における, 行動の変化を, 無関心期, 関心期, 準備期, 実行期, 維持期の5つの段階に分類し, この理論モデル (ステージモデル) を採用した.

結果および考察:

基本感情におけるステージモデルでは不安が他の感情と比較して突出して多い. 不安の派生感情におけるステージモデルでは強・中の不安は無関心期においては同じであるが, 関心期・準備期では中は増加し強は減少した. しかし, 維持期には同じ割合に収束がみられその数は少なかった. その反面, 不安弱は無関心期には少なかったがステージが進むにつれて増加傾向にあり, 実行期・維持期では不安強・中の4~6倍になっていた. これらのことは, 無関心期では, 治療に対しての不安や将来への不安が示唆され, 関心期・準備期では, 不安はあるが専門家に携る安心感から不安強と不安中との差異

が示唆される. 実行期では, 問診の時点ではどんな予防の取り組みをしているか分からないがセルフケアを始めているという自信から不安強・中の感情が低下し, 維持期では, セルフケアが維持でき且つ成果が表れているので不安強・中が低いのではないだろうかと推測される. また行動変容は, 多くの場合, 長期間にわたって段階的に達成されるので, それに併せた支援モデルが必要となる. 専門家はステージがわかれば感情がわかることとなり, 本人の心理的プロセスに併せて, アプローチすることが可能になることが示唆された.

謝辞:

発表にあたり, 伊藤透・中井久先生のご協力に感謝申し上げます.

